

令和5年度事業計画

基本方針

わが国経済は、長引くコロナ禍により、低調な状況が続いていましたが、ウィズコロナの下で各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待されています。一方で物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動の影響など不安要因を抱えている状況にもあります。

総人口が減少する中、65歳以上の高齢者人口は、令和4年9月の推計では3,627万人、総人口比で29.1%と更に超高齢社会になっており、企業における70歳までの雇用の努力義務など、高年齢者の労働能力をいかに有効活用するかが、国を挙げての重要課題となっております。

このような中で、「生涯現役社会」を目指して、元気な高年齢者が活躍するシルバー人材センター事業が果たす役割は、ますます重要で、地域社会からの期待も高まっております。

しかしながら、国の行財政改革による運営費補助金の削減や、インボイス制度導入による消費税の財源確保など、シルバー人材センターを取り巻く環境は依然、厳しい状況にあります。

こうした現状を克服するためには、更なる自助努力が必要であり、公益社団法人として真に地域社会に愛され、信頼される団体となるため、公益性のある事業展開を念頭に組織体制の強化とともに会員増強、就業機会の拡大とデジタル機器の活用による情報の発信と事務処理の効率化などを図る必要があります。

いわき市をはじめ関係機関の支援と協力を得ながら、会員、役職員が一体となった連携を更に強化し、「自主・自立」、「共働・共助」の基本理念のもと、安全・適正就業を基本に更なる事業の基盤拡大と充実発展に努めます。

事業実績目標

(前年度実績) 予想

(1) 会員数	1,200名	(1,173名)
(2) 受託件数	6,000件	(5,857件)
(3) 就業延人数	95,000人日	(88,334人日)
(4) 契約金額	500,000千円	(499,467千円)

事業実施計画

1. 組織体制の強化

公益社団法人として組織体制を更に強化するため、センターの自主性・主体性を基本に理事会をはじめ班長会議、各種委員会、地区班会議等の有機的な活動の推進を図りながら、より公正で公平な事業運営に努めます。また、いわき市、県連合会、ハローワーク等、関係機関との連携も密にし、地域社会のニーズに応え、信頼を高めるため、会員の就業意欲と共働・共助の連帯意識のもと、会員相互の親睦と融和を図りながら組織の強化に努めます。

2. 安全就業の徹底

事業運営の基本となる安全就業を全員で認識し、事故ゼロを目指し、組織を挙げて取り組みます。「安全は全てに優先する」を念頭に、具体的な事故防止対策の策定と事故を未然に防ぐため、安全就業遵守事項の

徹底、安全・適正就業委員会、安全就業推進員、安全パトロール指導員を中心として定期的な就業現場視察、就業時の安全一声運動等による注意喚起を積極的に推進します。また、会報やショートメッセージ等による啓発とともに、刈払機取扱会員講習会の受講義務付け、各種安全講習会等による安全就業の意識、健康診断の受診促進等による健康意識の高揚に努め、安全就業の徹底を図ります。

3. 適正就業の推進

受注内容及び会員の就業形態に係る法令順守を基本に、適正就業ガイドラインを踏まえて、公平な就業機会の提供を前提として、より多くの会員が働く喜びと生きがいを共感できるよう、「就業基準に関する要綱」を基本として、ローテーション就業の推進と就業参加の呼掛けを積極的に行います。また、ホームページやスマートフォンを利用した就業情報の公開を行い、適正就業の推進に努めます。

4. 福祉・家事援助サービス事業の推進

超高齢社会が進展する中、福祉・家事援助サービス事業の需要が年々増加してきている現状を踏まえながら、受注体制の強化のため、実践に即した講習会を実施すると共に、発注者、就業会員の多様なニーズを的確に把握し、希望に合った仕事の紹介に努めます。

福祉・家事援助サービス事業の充実のため、「福祉の受け手から担い手」を目指して、特に女性会員の拡大、育成を図り、センターの役割を十分検討しながら少子高齢社会に対応すべく積極的な事業展開を図ります。

5. 会員拡大の強化推進

センター事業の根幹をなす会員数を確保するため、今年度も会員拡大を最重要課題とし、街頭啓発活動等による積極的な入会促進活動や入会説明会(原則月5回)の充実を図ります。

また、会員増強奨励制度を活用した会員による紹介活動や夫婦会員割引制度の周知・浸透を図り会員拡大を推進します。多種多様な就業依頼に常に対応できるよう、センター理念に賛同し、自己の知識・経験を活用し、就業を通して社会参加と生きがいを希望する、より多くの健康で働く意欲と能力のある会員の確保に努めます。併せて積極的な就業呼掛け等により退会抑止に努め、会員拡大を推進します。

6. 講習会の充実・強化

技能職群の襖・障子張替え、植木剪定、筆耕や刈払機講習、家事援助サービス関係の講習会を実施し就業に必要な知識及び技能の付与による会員のスキルアップを図り、仕事にスムーズに対応できる体制を更に強化します。

またデジタル社会の到来を念頭に、スマートフォンを活用した情報の伝達や共有を目的としたスマホ操作講習会を開催します。

7. 普及啓発活動、就業機会開拓の推進

シルバー人材センター事業を地域社会に広く理解・浸透させ事業拡大を図るには普及啓発活動は大きな役割を果たします。今年度も高齢者就業拡大支援事業によるマッチング支援員の活動と併せ、センターのホームページによるPR、会報、リーフレットの有効活用、街頭啓発活動の実施等、様々な機会を通じて普及啓発に努め、関係機関との連携を図りながら、企業、各種団体、個人家庭へのPR活動を強化し、

普及啓発活動を推進します。また、就業機会の更なる拡大のため、会員、班長、役職員が一丸となり積極的に就業機会の掘り起しに努めると共に、役職員による事業所訪問等を実施し就業機会の開拓推進に努めます。

8. 多様化する就業形態への対応

労働力人口の減少もあり高齢者の雇用情勢は法律改正を受け多方面で変化が見られ、センターで扱う就業形態も従前からの請負・委任による就業はもとより臨時的・短期的な雇用による就業又はその他の軽易な業務に係る就業等、より多様化してきております。高齢者活用・現役世代雇用サポート事業の拡大を図り、会員と発注者のニーズを的確に把握しながら、仕事の量的確保、拡大を図るため、労働者派遣事業、職業紹介事業にも積極的に取り組みます。

9. 地域社会への貢献と共存

公益社団法人として真に信頼され、親しまれるセンターとなるためには、地域に根ざした協力、協調関係が何にもまして重要であり、共存、共栄の立場から地域あつてのセンターを念頭に感謝の心を持って、今年度も公益目的事業の一端として市内3ヶ所でのゴミ拾い清掃の地域美化奉仕作業、サンシャインマラソンのボランティア参加等の活動を継続し、会員作品展示会等の文化活動も積極的に実施しながら地域社会への貢献と共存を図ります。